

倶多楽の火山活動解説資料（平成 23 年 7 月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図 1-①、図 2～6）

日和山の噴気の高さは火口縁上 50m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。

登別市によると、大正地獄では泥混じりの熱湯の噴出が 2007 年 5 月以降、消長を繰り返しながらも時々発生しています。この現象は局所的なものであり、火山活動の活発化に直接つながるものではないと考えられます。

19 日に北海道開発局の協力を得て、上空からの観測を実施しました。日和山では、やや活発な噴気活動が続いていました。大湯沼爆裂火口、地獄谷爆裂火口では弱い噴気活動が続いており、これまでの観測結果（前回：2010 年 12 月）と比べて噴気や火口の状況に変化はありませんでした。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、各火口の地表面温度分布に変化はありませんでした。

・ 地震及び微動の発生状況（図 1-②）

今期間火山性地震は観測されず、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

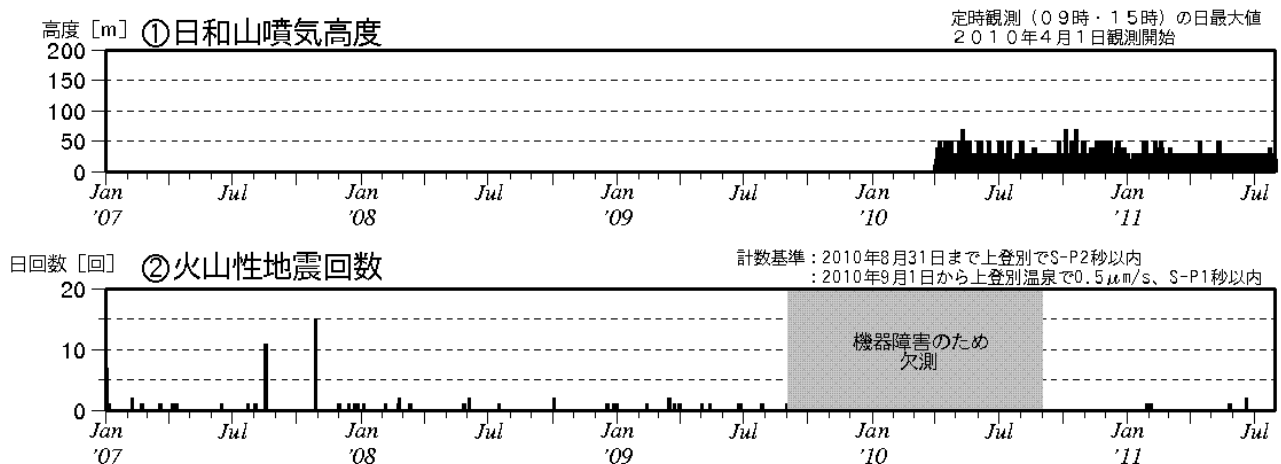


図 1 倶多楽 火山活動経過図（2007 年 1 月～2011 年 7 月）

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 8 月分）は平成 23 年 9 月 8 日に発表する予定です。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。また、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平 20 業複、第 647 号）。

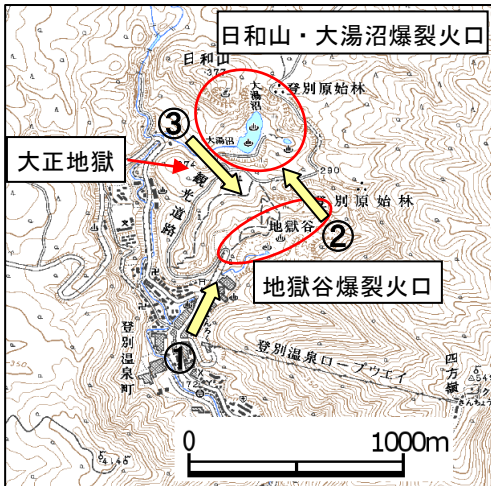


図2 倶多楽 火口周辺図
矢印は写真及び赤外熱映像の撮影方向



図3 倶多楽 日火山周辺と地獄谷爆裂火口の状況
7月19日南西側上空（図2①の矢印方向）から撮影
（北海道開発局の協力による）



図4 倶多楽 日火山・大湯沼爆裂火口周辺の地表面温度分布
南東側上空（図2②の矢印方向）から撮影
（北海道開発局の協力による）

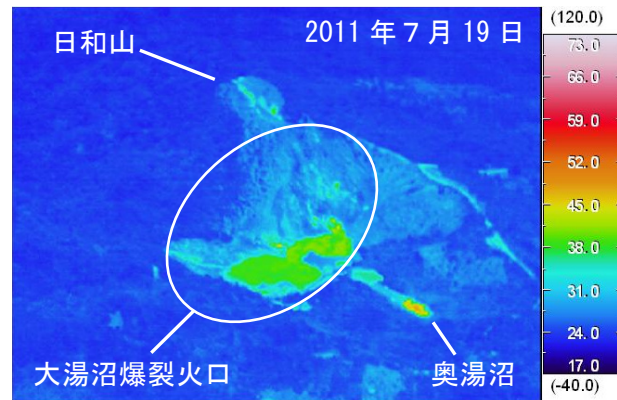


図5 倶多楽 地獄谷爆裂火口周辺の地表面温度分布
撮影北西側上空（図2③の矢印方向）から撮影
（北海道開発局の協力による）

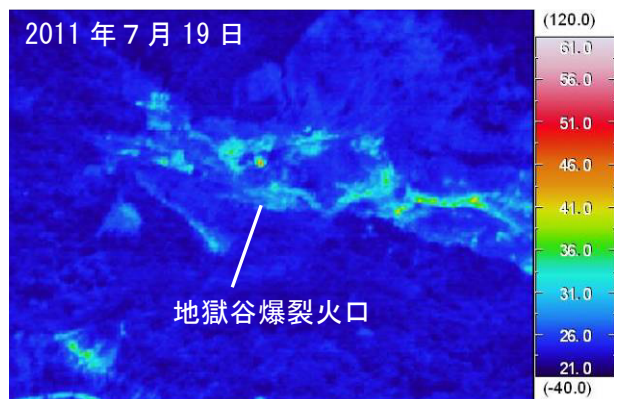




図6 倶多楽 日和山及び大湯沼周辺の状況（7月21日、414m山遠望カメラによる）
白丸内は日和山山頂爆裂火口の噴気

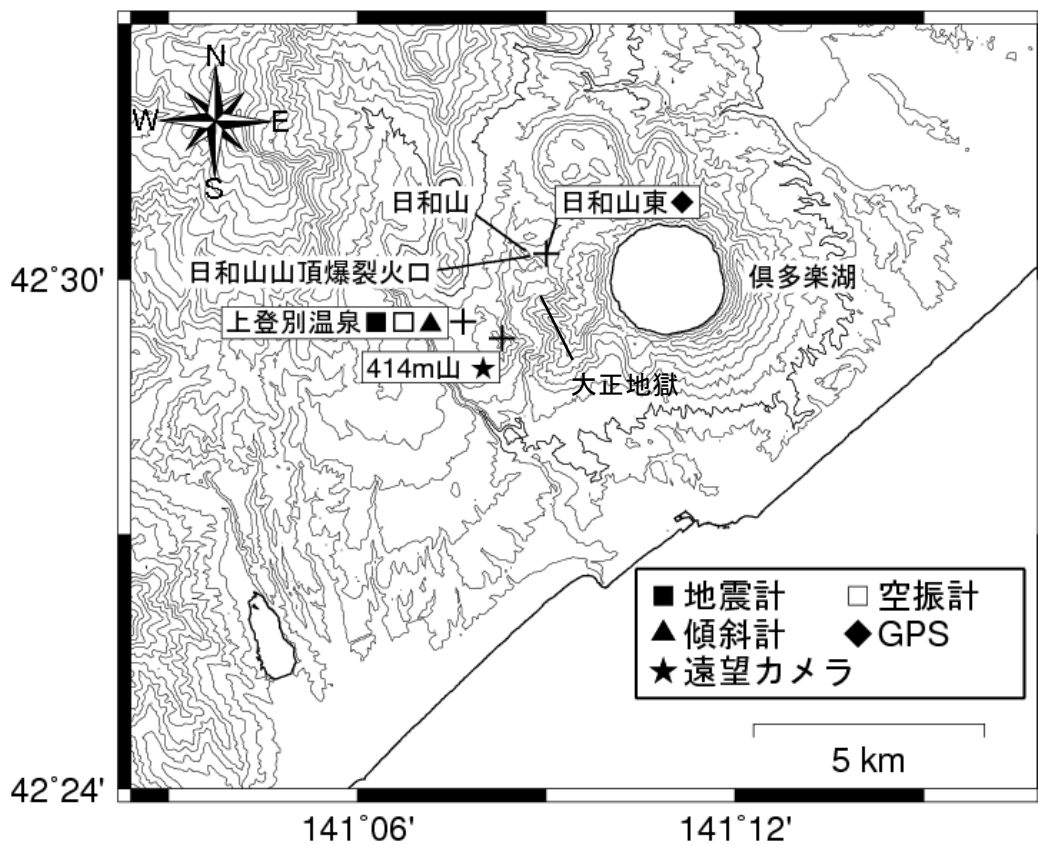


図7 倶多楽 観測点配置図
+は観測点の位置を示す